



健やか豆知識 第25回

Q. 子どもの発熱時に、すぐに医療機関の受診が必要な場合は？

- I 40℃以上の熱があり、頬が赤い
- II 顔色が青白く、呼びかけに応じない
- III 水分は摂れるが、食事を摂らない



高田製薬は、患者さんや医療関係者の声に耳を傾け、医療ニーズに合った医薬品の開発と情報提供で、健康な社会づくりに貢献します。

— 人びとの健康を護って —
高田製薬株式会社

子どもが発熱したら、まずは様子をよく観察しましょう。

感染症とは、微生物が体内に侵入し感染することによって起こる病気です。感染症に対する抵抗力が発達途上にある子どもは、ウイルスによる鼻やのどのかぜ、胃腸炎やインフルエンザなど、さまざまな感染症にかかり、発熱することがよくあります。40℃以上の熱が出ると「脳に影響が及ぶのでは」と心配になり、夜間や休日でも急いで医療機関を受診したくなる保護者も少なくありません。しかし、高熱だけでは脳がダメージを受けることはありません。熱が高くても、頬が赤く呼びかけに応じる、食欲はなくても水分が摂れている状態であれば、診療時間になるまで(休日であれば1、2日)様子を見てよいでしょう。

看病のポイントは、水分補給と全身状態の観察です。こまめに経口補水液などを飲ませながら、顔色が青くなっていないか、適度におしっこが出ているかをみてください。顔色が青白く、ぐったりして呼びかけに応じない、嘔吐や下痢を繰り返し、水分を受け付けられない、また生後3か月未満の乳児の場合はすぐに医療機関を受診しましょう。

保護者は、感染症の感染経路を理解し、家族にうつらないように対処することが必要です。できれば病児も家族もマスクをして、看病の前後は十分な手洗いと手指の消毒をしましょう。感染者が使用したティッシュやマスク、汚物など、感染の可能性のある廃棄物は素手で触らないように使い捨てのビニール手袋を使用してビニール袋に入れ、密封します。また、共用部分(スイッチ、ドアノブ、テーブルや床など)は、ウイルスの種類によってノロウイルスは次亜塩素酸ナトリウム液、インフルエンザウイルスは消毒用エタノールなどでこまめに消毒するようにしましょう。

一番の対策は、日頃から感染症にかからないための習慣をつくることです。子どもと一緒に正しい予防法(手洗い、自主的なマスク着用など)を確認するとともに、「なぜ予防しなければならないのか」や「感染予防のための正しい知識」を家族間で共有できるとすてきですね。

監修 吉原 重美 獨協医科大学 小児科学 主任教授

さらに詳しい情報は
ホームページで!



< 正解 II 顔色が青白く、呼びかけに応じない >

クイズの解説

子どもが発熱した時は、熱の高さだけでなく、顔色や表情、水分摂取できているかなど、まずは全身状態をしっかり観察しましょう。

お子さんの突然の発熱、心配ですね。しかし、高熱だけでは脳がダメージを受けることはありません。大切なことは、子どもの様子を観察することです。頬が赤い、呼びかけに応じる、あやすと笑う、元気がある、食べなくても水分が摂れていて、おしっこが出ている(いつも通りにおむつが濡れている)のであれば、通常の診療時間まで自宅で様子を見てよいでしょう。一方、発熱に関係なく、**すぐに医療機関の受診が必要な場合は、生後3か月未満の乳児の発熱、顔色や唇が青白い、呼びかけに応じない、ぐったりしている、嘔吐や下痢を繰り返している、水分を受け付けられない状態**のときです。感染症にかかると、子どもは発熱することがよくあります。家庭内感染を防ぐためにも、感染症の種類、感染経路、特徴、感染予防を理解し、感染対策を心がけましょう。(下表参照)

主な感染症	主な感染経路	特徴	感染予防法・対策
インフルエンザ、水痘(水ぼうそう)、流行性耳下腺炎、新型コロナ など	飛沫感染	咳やくしゃみ、会話で飛び散った細かい唾(飛沫)を吸い込むことにより感染する。	マスクなどの咳エチケット、メガネやフェイスシールド、人が密集している場所を避ける、ワクチンによる予防接種
結核、麻疹(はしか)、水痘(水ぼうそう) など	空気感染	空気中を漂っているウイルスや菌を吸い込むことにより感染する。	マスク(できれば高性能マスク)の着用、こまめな部屋の換気、ワクチンによる予防接種
インフルエンザ、ノロウイルス感染症、ロタウイルス感染症、疥癬、エイズ、新型コロナ など	接触感染	ウイルスが付着したドアノブやテーブルなどを触った手から感染する。また、感染者の皮膚や血液に直接接触することにより感染する。	十分な手洗いやアルコール消毒などの手指衛生、ドアノブなどの消毒は次亜塩素酸ナトリウムで行う、感染者との濃厚接触を避ける、ワクチンによる予防接種が可能なものもある
ノロウイルス感染症、ロタウイルス感染症、A型肝炎 など	経口感染	病原菌に感染した動物の肉や魚介による食中毒や、汚染された生水を飲むことで感染する。また、汚物の処理により感染する場合もある。	アルコール消毒が効果を発揮しないウイルスには、次亜塩素酸ナトリウムで消毒する、十分な手洗い、アルコール消毒などの手指衛生、肉、魚介類などは十分に加熱してから食べる、感染者の汚物処理には手袋やマスクを着用する